



MEMORIAL

# メモリアル



MEMORIAL  
 伝えたい、  
 酒田の歴史

残したい、  
 酒田の文化

▲土門拳記念館 主要展示室

古くより港町として繁栄し、経済的・文化的に豊かに成長を遂げてきた酒田市。  
 市内には多くの史跡や歴史的・文化的施設が存在します。  
 今年、大きな節目の年を迎える史跡や歴史的・文化的施設にスポットを  
 当て、その価値を探ります。



▲山居倉庫



▲常夜灯



▲本間美術館 鶴舞園・清遠閣

●お問い合わせ／市社会教育課文化財係 ☎24-2994、市文化スポーツ振興課芸術文化係 ☎26-5778、  
 公益財団法人 本間美術館 ☎24-4311、公益財団法人 土門拳記念館 ☎31-0028

酒田駅からほど近い住宅街に位置する本間美術館。その成りたちは、文化10(1813)年、本間家4代当主・本間光道が、庄内藩主、酒井侯の休憩施設として築造した別荘です。昨年1月に国の名勝に指定された庭園・鶴舞園と、本館・清遠閣は、今年築造から200年を迎えます。



▲池泉回遊式庭園「鶴舞園」



▲東宮殿下がお泊りになった御座所  
床の間の壁に金色の雲が浮かび上がる



▲鶴舞園山灯籠  
月の形に彫られた穴からは鳥海山が見える

## 築造200年

本間美術館

# 鶴舞園・清遠閣

池の中島に鶴が舞い降りたことがその名の由来である鶴舞園は、鳥海山を借景とした池泉回遊式庭園で、中央の池を囲むように、松の古木やツツジなどの大きささまざまな植物が植えられています。また随所に配された諸国の銘石や灯籠が、木立の風情を引き立てています。

清遠閣は、質素かつ精緻な京風建築。酒田の迎賓館として、大正14年、当時の東宮殿下（後の昭和天皇）のご宿泊をはじめとして多くの要人・貴賓が宿泊しています。

200年前、鶴舞園・清遠閣の築造に当たったのは丁持ちと呼ばれる港湾労働者。この事業は、その冬季失業対策という面も持ち合わせていました。

公益財団法人本間美術館  
館長 田中章夫氏インタビュー

**親しみのある美術館を目指して**

**公益の人、本間光道**

本間家は代々、質素節約を心掛け、地域を豊かにすることを第一に考えていました。藩のためにもなり、地域の住民のためにもなる鶴舞園・清遠閣の築造事業からは、光道の人柄と、先祖から受け継いだ公益の精神が感じられます。

築造当時の鶴舞園の樹木は今よりも低く、出羽丘陵や周囲の豊かな田園風景が見渡せたようです。光道は清遠閣から見える景色に、地域の人々の豊かな暮らしを重ね、誇りに思っていたと思います。

**酒田の迎賓館から市民の美術館へ**

質素な造りでありながら、当時の職人の技術が随所に光る「酒田の迎賓館」清遠閣。東宮殿下の御座所。際には、提灯行列で歓迎した市民に対し、殿下が赤提灯で



▲清遠閣階段の欄間。樺の一枚板に梅を透かし彫りしたもので、壁に伸びた影に、枝に止まったうぐいすが浮かび上がる

御答礼なされたという記録が残っています。

昭和22年、戦争で荒んだ市民の心を所蔵の美術品で癒すべく、日本初の私立美術館である本間美術館は設立されました。本間家も農地改革で所有地の多くを失い、苦しかったはずですが、公益の精神が開館を決意させたのだと思います。

開館翌年の昭和23年には、「三重苦の聖女」ヘレン・ケラー氏が来館。目が不自由な人への点字図書の整備や、融資を行っていた本間家に以前から興味を持っていたというケラー氏は、美術品を手で触って鑑賞し、大変喜んだそうです。来館を記念して植樹されたヒマラヤ杉が現在も正門前に立っています。

当美術館は、設立から常に市民の皆さんと共に歩んできました。これからは公益財団法人として、市民の皆さんの声を積極的に運営に取り入れ、皆さんに親しまれる美術館にしていきたいと思えます。



田中章夫氏／昭和49年より本間美術館に勤務。主任学芸員、副館長を経て平成19年より同館館長を務める。

飯森山を背に、目の前に広がる湖に浮かぶかのようにたたずむ、土門拳記念館。

本市出身の世界的写真家、土門拳の全作品を収蔵する、日本で初めての、世界でも珍しい写真専門の美術館としてオープンした同記念館は、開館から30周年を迎えます。



▲飯森山を背に、湖面に浮かぶ土門拳記念館



▲イサム・ノグチ氏の彫刻



▲勅使河原宏氏による庭園「流れ」

開館30周年

## 土門拳記念館

旧酒田市の市政施行40周年に当たる昭和49年、土門拳氏が酒田市名誉市民第一号に認定されました。その顕彰式において、同氏が「私の全作品を酒田市に寄贈したい」と発言したことを受け、約7万点に及ぶ作品を収蔵する、日本で最初の写真美術館として土門拳記念館は設立されました。同記念館の設計は、土門氏と親交の深かった谷

口吉郎氏の長男、谷口吉生氏が担当。またイサム・ノグチ氏や亀倉雄策氏など、名だたる芸術家から銘板や彫刻などの寄贈を受けています。「風貌」「ヒロシマ」「古寺巡礼」など、土門氏が発表した数々の傑作は、全て同記念館に収蔵されており、全国でいつも土門氏の作品が見られるのは土門拳記念館だけです。

公益財団法人土門拳記念館  
顧問 相馬大作氏インタビュー

### 「思い」の詰まった写真美術館

#### 全作品をふるさとに

「全作品を酒田に」という名誉市民顕彰式での土門氏の申し出から、ふるさとに対する強い思いを感じました。

土門氏は「入れ物(収蔵場所)は立派なものでもなくてもいいよ」と言われましたが、約7万点に及ぶ作品を収蔵する写真美術館の建設は、とても大きく大きな事業。市を挙げて建設に取り組みしました。

総事業費は、実に8億8千715万円。資金の捻出は困難を極めました。当時の建設省から「カルチャーパーク」の認定を受けて補助金の交付を受けました。また建設期成同盟会長の前田巖氏と初代館長の



相馬大作氏/元酒田市長。当時、市長として市民の先頭に立ち、土門拳記念館建設を推進。

三木淳氏が全国に呼び掛けて寄せられた1億円を超え、土門氏と親交のあった名だたる芸術家の無償の協力がなければ、昭和58年の開館は迎えられなかったと思います。



▲名誉市民顕彰式での、土門拳氏、たみ夫人、相馬大作氏。

#### 土門氏の思い、市民の思いを後世に

全作品の寄贈が決まった後、たみ夫人が「これからあなたの写真をどうやって見ればいいのか」と土門氏に尋ね、同氏は「酒田に行ってみればいいでしょう」と答えたといいます。

世界的写真家、土門拳の全作品を収蔵する世界でただ一つの記念館が、酒田に存在するということだけでも幸運なことだと、私は思います。

「文化」というのはその街の顔。土門拳記念館は、酒田の誇るべき文化です。土門氏のふるさとへの思い、土門拳記念館に大きな期待を寄せた市民や全国の写真愛好家の思い。さまざまな思いの詰まったこの記念館を、後世に伝え、残してほしいと思います。

築造120年

山居倉庫



テレビドラマ「おしん」や、映画「おくりびと」のロケ地としても知られ、県内外から年間数十万人の観光客などが訪れる一大観光スポットとなった山居倉庫。築造から120年を迎える現在も、現役の農業倉庫として活躍しています。

明治26(1893)年に建設された同倉庫は、当時民営としては他に例のない規模を誇りました。隣接して植えられた樺並木が西日や西風を防ぎ、二重屋根や天窓・換気窓によって倉庫内の温度・湿度は適度に保たれ、同倉庫から出荷される「山居米」は、当時日本一の品質の名声を得ました。

現在、同倉庫には「庄内米歴史資料館」が併設されており、庄内の米作りの歴史などを紹介しています。

建立200年

常夜灯

日和山公園に設置されている常夜灯は今年、建立から200年を迎えました。

常夜灯は、文化10(1813)年1月、紀州日方浦の船頭橋本元助などが建立したもので、土台の部分には、酒田の燈屋をはじめ、西回り航路寄港地の廻船問屋の名前が刻まれています。

当時の酒田港近くの丘(現在の日和山)に土盛りをし、沖合からの目印として、



常夜灯。遠く日本海を臨む

また船の安全な航海を祈願して建てられたものです。

現在、市民の憩いの場である日和山公園に設置されている常夜灯。夜間は電気によって明かりがともされ、訪れる人びとに、当時の日和山の雰囲気を感じていきます。

平成 25 年度に行われる記念展示、企画など

●本間美術館

【鶴舞園・清遠閣200年記念】

- 「伝来の美術と歴史物語」期間/6月11日(火)まで(本紙20頁参照)
- 清遠閣でのお茶会 第二部(皇風煎茶礼式) 期日/6月9日(日)
- 本間美術館・致道博物館交流展「出羽庄内の宝もの」  
期間/8月1日(木)~29日(木)▶両館長講座/8月3日(土)午後2時~



本間美術館館長 田中章夫氏、  
8月10日(土)午後2時~  
致道博物館館長 酒井忠久氏  
●「かわいい 楽しい 鼻煙壺の魅力  
—沖 正一郎コレクション—」  
期間/9月1日(日)~10月8日(火)

●土門拳記念館

【開館30周年記念展】

- 「腕白小僧がいた」同時開催「古寺巡礼」「風貌」  
期間/6月16日(日)まで(本紙19頁参照)
- 「土門拳の美学—強く美しいもの—」同時開催「ヒロシマ」  
期間/6月19日(水)~9月8日(日)(裏表紙参照)
- 「古寺巡礼—とっておきセレクション—」「出会いの結実(女優と文化財より)」  
期間/9月11日(水)~12月15日(日)

【開館30周年記念企画】

浜美枝講演会「土門拳とわたし(仮題)」  
日程/9月28日(土)午後2時~▶場所/公益ホール(飯森山三丁目)

MEMORIAL  
伝えたい、  
酒田の歴史

残したい、  
酒田の文化

●かけがえない財産

今回紹介したものの他にも、史跡や歴史的・文化的施設はまだたくさん存在しています。

普段何げなく生活していると、その価値や重要性は気付きにくいものですが、港町酒田の繁栄や、先人の生み出してきた文化を今に伝える史跡や施設は、私たち市民にとってかけがえない財産です。

節目の年が重なる今年、私たち市民がその存在と価値を再認識し、先人が酒田に残した財産を後世に伝えていきたいものです。